

【施策評価調査】

施策名	1-3-1	公共交通システムの体系化と運用	76	高齢者をはじめとした交通弱者の移動ニーズに合わせて、NPO法人、ボランティア団体などの地域活動団体や民間事業者などが適切な役割を担う、地域に密着した移動サービスを整備するため、町民の意見や現状の課題を盛り込んだ計画を策定し、運用を行います。
担当部課	総務企画部 地域安全課	担当 リーダー	危機管理 戸井田 和明	
環境変化	元気あつぷ巡回バス、福祉バスが平成21年9月30日をもって運行廃止となり、新たに平成21年10月1日からデマンド交通システムの運行が開始された。			運用に当たっては、町内の主要施設やJR3駅、病院等の医療機関等を有機的にリンクしたものと、高齢者等の利便性がより向上するものとします。なお、策定にあたっては、現行の児童送迎バスとの併用、バス利用不便地域の対策等、町内の交通を総合的に検討します。また、運営主体・運行主体・運行形態等については広範な角度から検討し、利用者の利便性と経済性に優れた、効率的かつ効果的な運営を実現します。(※「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋)

■指標

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標①:(元気あつぷ巡回バス、福祉バス、)児童送迎バスの利用者数(人)	平成16年度利用者数	計画	37,500人	37,500人	37,500人	39,000人	40,400人
	37,500人	実績	↓ 34,391人	↓ 35,655人	↓ 34,598人	↓ 34,638人	
指標②:デマンド交通利用者数		計画				12,600人	31,400人
		実績				↑ 18,169人	
指標③:		計画					
		実績					
◆◇ 指標に関する特記事項 ◇◆ 元気あつぷ巡回バス、福祉バスについては、平成21年度9月30日で廃止となったため、平成22年度の指標は、デマンド交通利用者数に変更							

	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	当初	1,476,000	3,795,000	220,000	32,583,000	
	決算	1,102,500	3,541,568	121,000	31,085,871	

■事務事業事後評価 21年度の検証

施策傘下事務事業	事業費	活動量(アウトプット)	施策への貢献度	施策達成にどう貢献しましたか?(アウトカム)			
①デマンドバス実験運行事業費	当初 32,583,000	デマンドバス利用者数 1日70人×30日×6ヶ月=12,600人	A	利用者層や利用内容については、多岐に渡っており、登録者数・利用者数ともに日を追うごとに増えています。すべての方の安心で安全な地域の足となっております。			
	決算 31,085,871	18,169人 / 12,600人		今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	継続
②	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
③	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
④	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
⑤	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	

■施策事後評価 21年度の検証

	施策達成状況に関する評価	課題と今後の方向性
自己評価	今までの町営バス等のルートによる運行では利用しにくかった交通弱者が、ドアtoドアのデマンド交通システムを運行することで、移動手段の確保ができ、高齢者の外出する機会も増えてきています。引きこもりがちな高齢者の社会参加の促進等に寄与できています。	現在、高齢者の方に多く利用されていますが、高齢者のみならずより多くの方に利用してもらえるように今後もPRをしていきます。また、輸送先の店舗・医療施設等と行政が連携し持続可能なシステムとしていくことが必要であると考えます。例えば、乗車場所の表示やベンチ等の設置のほかデマンド交通システムを継続していくうえで輸送先にできることも検討していきます。
総合評価	継続的に施策展開されていると評価する。 実験運行を検証し、課題の整理やどういった利用があるのかの分析を行うことはもちろんだが、今後運行していく上で懸念される利用者の拡大方法、運行計画、商業者など輸送先を巻き込んだ展開など、機能的かつ連携した施策展開を検討すること。また、近隣市町の動向を注視し、将来的に連携できるかどうか研究していくこと。	